生機構を研究し，道路構造，管理，情報提供など，あらゆる角度から対策を検討するための調査を進めている．現地調査では，定点の観測に加え，車に，視程の雪粒子の数，大きさを計る計器を載せ，道路上で移動しながら観測することもある．

北海道開発局は，本州各地の地方建設局（建設省），地方農政局（農林水産省）の一部，港湾建設局（運輸省）の機能をあわせ持っている．そのため，開発土木研究所が行っている研究の特徴は，道路について言うと，国道の計画，建設，維持など国の直轄公共事業の実施部門と密接な連携があり，研究結果を，道路防災対策に生かしやすいことである．研究から得られた結論の成否を，模型などにとどまらず，試験施工などで，実際の道路を対象に自分の目で確かめる事ができる．また，事業部門から相談される課題の中には，既存技術だけでは対処できない内容を含む場合もあり，中には，長期の研究課題へと，発展させられるものもある．更に，事業部門の道路管理業務から得られる，通行規制などの資料は，各地の自然条件や，社会的背景を反映している．そのため，防災対策や，災害の危険度を検討する際の基礎資料となるだけでなく，時代とともに変わる傾向に注目していると，将来にわたる課題が見えてくる事もある．このように，事業部門が収集している資料の中には，道路管理者しか持ち得ない記録もあり，より有効に使えるようにするため，災害関連資料のデータベース化を計画的に進めている．気象との関連では，気象官署では収集していない場合の多い，峠，山間部などの道路を対象に，独自のテレメータ回線で収集している道路気象データなどがある．これらの記録は，気象庁が整備を進めているメッシュ気候値を我々が利用する際，より精度良く利用できる背景となっている．

道路防災は，道路以外の他分野との協力が不可欠である．災害時，各種交通機関の被災，復旧状況を調べ，幹線道路の果たす役割を見直すため，他機関との共同研究を進めている．また，野外でもこの冬，北大，名大が石狩湾，石狩平野で実施する雪の観測に協力し，吹雪を精度良く予測するための情報を得たいと考えている．

3. おわりに

今後，車の利用は増えることがあっても，減ることはないであろう．道路には，これまで以上の安全性，信頼性，自然環境との調和が求められる．そうした道路を作り，維持するため，できるだけ早い段階から，気象や気候，自然環境に関する各方面の研究成果を，積極的に取り入れながら仕事を進めていきたい．

情報 File

第2回東和大学国際シンポジウム「都市の熱環境」開催のお知らせ

名　称：第2回東和大学国際シンポジウム「都市の熱環境」
Conference on Urban Thermal Environment, Special in Tohwa 1992

愛　称：CUTEST' 92

主　催：東和大学中央科学研究所

期　間：1992年9月7日（月）～10日（木）

場　所：東和大学（福岡市南区筑紫丘 1-1-1）

主　旨：地球温暖化の現象などから注目を集めている都市の熱環境の問題を，世界各地の気象学，地理学および建築学などの研究者や技術者と議論する会議です．主なテーマは，都市気候に関する測定やモデル化，建物設計と熱環境の関係および都市における温熱感覚などです．

現在，会議の参加および研究発表を受け付けております．詳細は下記までお問い合わせください．

〒815　福岡市南区筑紫丘 1-1-1
東和大学中央科学研究所　　堤　純一郎
電　話：092-542-0812
FAX：092-542-0813